



2 [高千穂の山山をバックに神武さま]
むかしむかし、神武さまは、日向（ひむか）の地に住んでおりました。

田中千穂里
(5年)

中城 結衣
(1年)

↑
たなか
ちほり

↑
なかじょう
ゆい

①



3 [45歳になった神武さまと兄弟や子どもを集めるシーン]

45歳になった神武さまは、兄弟や子どもたちを集めました。

②

田中大曲
本ながたいはら



黒木
黒玉 黒い
一棧寸

4 [神武さまが兄弟や子どもたちに話をするシーン]

神武さまは、話し始めました。

「日向の地は日本の西辺にあたり、全土（ぜんど）を治めているわけではない。

聞けば、東に美しい地があるというではないか。

青い山が4周にあり、その地がまさに天下（てんか）を治めるにふさわしいと確信（かくしん）するにいたった。よって、その地を都（みやこ）とすべく立ち上がるのだ。」と。

兄弟や子どもたちはみな、賛成（さんせい）しました。



5 [5隻軍船を率いて出港する神武さま]

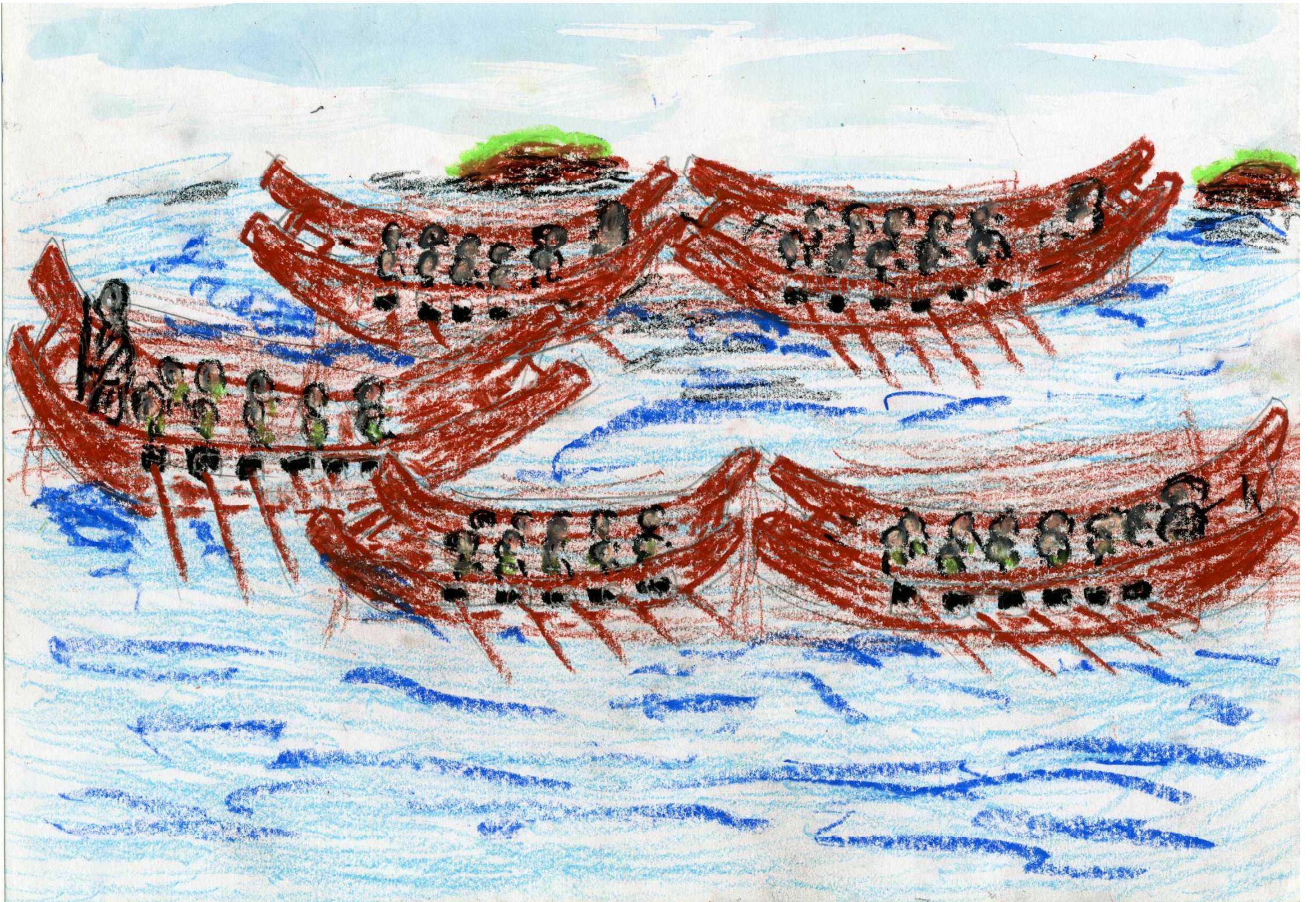
神武さまは、5隻の軍船（ぐんせん）を率いて日向の美々津（みみつ）を出発しました。

池田真見

内倉廉 神戸愛斗

~~内倉廉~~

池田真見
神戸愛斗
内倉廉



6 [軍船の前に現れた一頭のくじら]

すると、門川の沖合で、一頭の大きなくじらに出会いました。

中村拓登

⑤

⑤